

プロジェクトレポート

プロジェクトの最新情報をお伝えします

グルジアの「児童図書館環境改善プロジェクト」をご紹介します

今年度より、グルジアで新たなプロジェクトを開始しました。首都トビリシにある L.アサティアニ児童図書館で、2つの図書室の改修を行い、グルジア語の図書を支援する「児童図書館環境改善プロジェクト」です。

これまでグルジアでは、日本語教材支援を中心に約5年間活動を行ってきました。図書館プロジェクトは初の試みですが、これまでに築いたグルジアとの信頼関係やタイで培ってきた図書館活動のノウハウを活かして、順調に進めています。今回は、図書館プロジェクト実施までの経緯や内容、現在の状況についてお伝えします。

<L.アサティアニ児童図書館とは>

L.アサティアニ児童図書館は、グルジアの児童図書活動の中心的役割を担っています。グルジア各地で児童図書館向けセミナーや子どもたちのためのイベントの開催、移動図書館の運営など、読書の普及のために様々な活動に取り組んでいます。移動図書館活動では、トビリシ市内の22の学校に本の巡回をしています。近隣に図書館がないため、子どもたちだけでなく、大学生や社会人も利用しています。

<プロジェクトはこうして生まれました>

このように重要な役割を担う L.アサティアニ児童図書館ですが、旧ソ連から独立後、国の支援が削減されたために、建物は老朽化したまま放置され、新しいグルジア語の図書を購入することもできない状態が続いていました。読書環境が悪いために、子どもたちは読書への興味を失い、図書館スタッフが利用を増やそうと熱心に取り組んでいたにもかかわらず、子どもたちは図書館へあまり足を運ばなくなっていました。

グルジアの現地スタッフ、ルスダン・ピルヴェリ(通称ルシコ)は、昨年2月にタイの図書館活動の様子を調査した経験から、この状況を改善するためのプロジェクトを提案しました。図書館のスタッフと話し合うなかで、彼らの意欲が感じられ、読書環境が改善されれば、子どもたちの読書への関心も高まり、より多くの子どもたちが図書館を利用するようになるだろうと考え、昨年の秋にプロジェクトを具体化しました。

<プロジェクトで行うこと>

今回のプロジェクトでは、老朽化した2つの図書室の改修工事をしたのち、本棚や机などの家具と図書を購入します。図書は、図書室に設置するだけでなく、移動図書館用にも用意します。

現在は、図書室の工事が終了し、家具や図書の購入準備をしているところです。購入予定の1600冊のうち、約450冊の本が既に届いています。図書館のスタッフは

現地からの声

L.アサティアニ児童図書館の館長が
今回の事業についてお話ししてくれました

今年の5月に、図書館の歴史のなかでとても素晴らしいことが起こりました。ノマドインターナショナルと日本の2つの財団の協力のおかげで、2つの図書室の刷新が始まったのです。

ディデュベ、ディゴミそれぞれのビルにある図書室は、天井や床が新しくなり、壁は子どもたちが喜びそうな色に塗り替えられました。

最も大切なことは、新しい本を購入したことです。これまで古い図書ばかりだった書庫が、カラフルな百科事典、おとぎ話、その他文学作品でいっぱいになりました。

今では、ここにある本や図書室の環境は、新しい会議やセミナーをするのにふさわしいものとなっています。私たち司書に話しかけてくる、また本の世界に触れることに関心のある、全ての子どもたちを満足させることができます。

(L.アサティアニ児童図書館館長 Roza Argutinskaya)

これまでの読書環境は本当に厳しいものでした。図書館スタッフの笑顔や子どもたちが喜んで本を手にする姿が目に見えようです。

みな、新しくきれいな本を前にとっても喜び、興奮しながら図書室再開の準備を進めています。8月中には家具や本が設置され、図書室の利用が再開される予定です。また、移動図書館や様々なイベントも積極的に実施し、多くの子どもたちが読書に触れる機会を作っていきます。

今秋には、グルジアに日本からスタッフを派遣し、図書館プロジェクトの確認や子どもたちとの交流活動を行う予定です。事業完了後の図書館や子どもたちの様子については、訪問結果と合わせて、随時ご報告していきます。

*グルジアの「児童図書館環境改善プロジェクト」は、ひろしま・祈りの石国際教育交流財団と日本国際協力システムの助成を得て実施しています。

タイの教育事情

タイの教育制度は日本と同じ 6・3・3・4 年制がとられています。1999 年の新国家教育法で、これまでの小学校 6 年間に加えて、中学校 3 年間を含めた 9 年間で義務教育と定められ、2002 年度から実施に移されました。2002 年の統計では、小学校の総就学率は 100%を超えており、中学校で 82%となっています。

中学校就学率は 10 年間で 30%以上の伸びを示していますが、これには、1980 年代の終わり頃からの工業化が大きく関わっているようです。経済成長を目指す政府は、工業化に必要な人材を養成すべく、小学校に付属させる形で中学校を地方に大幅に増設しました。また人々も、最低賃金や休みがきちんと保障された工場への就職を望むようになり、そのために必要な中卒の学歴を求めて、進学意欲が高まりました。

しかし、義務教育となった今なお、20%近くの子どもは中学校に通っていません。これは、憲法上は無償でも実際には昼食代や通学費用が家庭の大きな負担となったり、また山間部などでは通える範囲に中学校がないといった理由で、進学できなかったり中退してしまう子どもが少なからずいるからです。この傾向は収入の低い農村ほど顕著で、教育においても都市と農村の格差が存在しています。この格差をなくし、全ての子どもたちが義務教育課程を修了できるようにすることが、教育政策として問われていると言えるでしょう。

データは『タイ：ミレニアム開発目標に基づく成果報告(2004年版)』(国家経済社会開発委員会/国連開発計画)より。総就学率には入学の遅れや留年のため学齢を超えて在学している児童・生徒も含まれます。

<現地スタッフ短信：タイの現地スタッフが日々の生活をつづります>

タイだより

(在バンコク：八木)

移動図書館の調査のため、ピサヌロークを訪ねた。参加校のミーティングで今回目立ったことは、参加校以外の周辺校からも、関心を持つ先生が出席したことだ。活動やミーティングの視察だけでもさせてもらえば、今後、学校独自の活動の参考にしたいと言う。図書館活動が、周辺地域へと自主的に広がる兆しが見えている。こうして発展することが、活動の本当の意味での成功に繋がる。

事務局だより

事務局からのお知らせや最近の動きなどをお伝えします

図書館プロジェクトをご支援ください！

～タイでは約 250 円で本が 1 冊買えます～

タイで続けてきた図書館プロジェクトは、現地から支援継続の強い要望がありますが、昨今の厳しい経済状況の中で公的助成などが限られ、活動継続が困難になっています。

タイでは図書購入のための政府予算は、小規模校で年間 3,500 円ほど。子どもたちが興味を持てる本を揃えることはできません。これを改善するため、今年度は、拠点校 11 校に約 1000 冊の本を送り、読書推進活動を行う計画ですが、現状ではその予算が不足しています。

皆さんの中には、子どもの頃、読んだ本が心に感動を与えたり、将来進むべき道にヒントを与えてくれた経験をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。タイの子どもたちもそうした体験ができるよう、ぜひご協力をお願いします。寄付は 1 口 1,000 円から受け付けています。

<お振込先> (次の2種類のいずれかへお願いします)

郵便振替口座 口座番号：00100-2-14174

口座名：ノマドインターナショナル

みずほ銀行 渋谷支店 普通 3507509

口座名：特定非営利活動法人ノマドインターナショナル

お名前、ご住所、図書館プロジェクトへの寄付である旨を明記してください。みずほ銀行にお振込みの場合は、E-mail か FAX、郵便にてお知らせください。

国際協力フェスティバルのご案内

10月2日(土)・3日(日)、東京の日比谷公園にて、国際協力フェスティバルが行われます。当団体も参加して、活動の紹介を行います。国際協力について知る良い機会です。ぜひお出かけください。

また、お手伝いくださるボランティアの方を募集します。ご関心をお持ちの方は事務局までお気軽にお問い合わせください。

メールでの配信をご希望の方は・・・
Newsletterは電子メールでも配信しています。ご希望の方はnomad@nomad-int.orgまでご連絡ください。

編集後記

・豪雨や猛暑など異常気象が続きますが、タイも今年は雨が多く、洪水が起きているようです。被害が大きくなることを祈ります。(武津)
・ようやくグルジアのプロジェクトを紹介できました。まだまだ日本にとっては遠い国ですが、今後も色々ご紹介していきます。楽しみにして下さい。(田島)
・暑い日が続き、私は少々バテぎみですが、皆様はいかがお過ごしでしょうか？新しいパンフレット、ホームページを近日中にご紹介する予定です。(伊藤)

会員募集中！ 私たちの活動は市民の皆さまからのご支援で成り立っています。ぜひあなたも会員になって、活動を支えてください。個人正会員は年会費 6,000 円(入会金 2,000 円) 賛助会員は年会費 2,000 円(入会金 1,000 円)です。